

日本共産党川棚支部

町議会議員 久保田かずえ

電話(八三)二三九八

乳幼児医療費助成に現物給付の導入を

県内自治体、医療機関が統一して取り組むようになれば検討する(町長答弁)

チャイルドシート購入に補助金を

久保田かずえ町議が十二月議会で一般質問

子育て中の保護者からの要望がつよいチャイルドシートの補助について、久保田かずえ町議は、十二月議会で一般質問を行いました。

負担が多いことが原因で少子化が進んでいる。今後は子育て支援対策の充実を図ります」とある。

町内の保育所・幼稚園に通う子どもには町の助成が予算づけられている。自宅で子育てに頑張っているお母さん方にも平等に補助が出れば助かると思う。

多くの子育て世代が望んでいるチャイルドシート購入に対する補助を是非検討していただきたい。



現在、川棚警察署の交通安全協会で、チャイルドシートは貸し出されている。台数は45台、しかしベビーシートは置いておらず小さいサイズの10台は、ほとんど出払っている状態であり、借りるには協会の会員でなくてはならない。

東彼杵町では、子育てプロジェクトにチャイルドシートの購入を掲げており、すでに2万円を上限に補助を行っている。かわたな子育て支援プロジェクトには、「子育てに伴う経済的

久保田かずえ町議

乳幼児医療費助成制度は、子育て世代の負担の軽減を図るための福祉の施策であり、手続きの煩雑を改善することこそが行政が行う緊急の課題である。

四月の議会で質問したが、現物給付の導入を再度考えてほしい。

現物給付の制度とは

1回800円、月2回1600円の医療費を窓口で支払えば、いつでもどこでも安心して病院にかかれる制度。

町長

波佐見町は町民からゆずりうけたものを無料で貸し出している。町内にもねむっている物があると思う。再利用を考えるべきであり、補助をする考えはない。

久保田かずえ町議

療機関にかかった場合、償還払いと混在した形になる。県下市町が医師会と協力して取り組む事になれば100%の医療費助成が現物給付となり手続きの煩雑さが解消され、子育て支援ともつながると思う。

事務の軽減につながる事であり、現物給付の実施に向けて努力していきたい。

久保田かずえ町議

多くの自治体が現物給付で実施している。積極的に県に呼びかける考えはないか。

町長

固執しようとは思わない。それで充分だと思っている。

久保田かずえ町議

子育ては大変な苦勞が必要、800円で不安が解消出来ると思う。よその市町と足並みを揃え

るのではなく、是非、もっと早く町内で現物給付が実現できるように取り組んでいただきたい。

久保田かずえの町政報告会

とき 2月14日(木)午後7時

ところ 東白石コミュニティセンター

話す人 久保田かずえ町議会議員

田村貴昭・日本共産党九州・沖縄国政対策委員長。



保育所の統合を見直して

白石・小串保育所保護者会が陳情

白石保育所と小串保育所の保護者会から出された陳情が、行政改革対策調査特別委員会に付託されましたが、文教厚生委員会との連合審査となり、陳情は賛成少数で不採択となりました。また本会議でも討論の後、賛成少数で不採択になりました。

陳情者は「今の場所にあることで、地域の方とのふれあい、園外のお散歩でも地域の方との話ができて、地域で子どもが育てていくことができ、例でいうと、ある障害児が年を追うごとに自力でい



いことができるようになったのは、先生・子どもたちの理解があったからだと感じている」などと意見をのべました。陳情の内容は次の通りです。現在の統合計画を見直していただきたい。

久保田かずえ町議は、陳情に賛成し、本会議では、陳情不採択に対する反対討論を以下のように行いました。



久保田かずえ町議

現在、推しめられている白石・小串保育所の統合計画は、行政側から一方的に出されたものであり、大きな特徴は、保護者や現場の合意がないまま押し付けられたところにあります。

行政は少なくとも「子どもの育ちに責任を持つ」という自治体の基本理念が後退する事は明らかです。子ども・住民を大切にしているという姿勢をしっかりと持つのかを問う事が求められています。



保護者の声

子どもの心を無視した強引な統合計画は見直すべきでありません。

「後期高齢者医療制度」の4月実施の見直しを 2,198筆の署名とともに議会に請願提出

——川棚町年金者組合と東彼民主商工会と合同で——



議会に提出された署名

請願事項

来年四月から後期高齢者医療制度実施の全面的な見直しを求めること。
70～74才の窓口負担を2割に引き上げことを止めること
医療に使う国の予算を増やして、高齢者・国民が安心して医療を受けられるようにすること。

2198筆の署名と一緒に「後期高齢者医療制度に関する請願」が、川棚町年金者組合と東彼民主商工会の合同で川棚町議会に提出されました。

この「請願」は文教厚生委員会に付託され、久保田かずえ議員のみが賛成でしたが、不採択となりました。十二月二十一日の本会議でも賛成少数で不採択となりました。

久保田かずえ議員は、本会議で不採択に対する討論を以下のように行いました。

久保田かずえ議員

「国民皆保険」が確立している国の中で年齢で被保険者を切り離し、保険料や医療内容に格差をつけている国はありません。しかも、「後期高齢者医療制度」は医療費がかかるという高年齢者をじゃま者扱いにし、高齢者のくらしや健康も破

壊していく最悪の制度です。

高齢者への医療を抑制することは「現役世代のため」といつているが、この制度が最も「威力」を発揮するのは「団塊」の世代が高齢者になった時です。いまの高齢者はもちろん、将来高齢者になるすべての国民から医療を奪い取る改悪です。高齢者を扶養している現役世代に重くのしかかることになります。

後期高齢者の方々は、国の競争という行為により自分の人生を犠牲にさせられた人達です。せめて、「老後は生きていくのが楽だった」「長生きして下さって有難う」と言える社会にしていかなければなりません。国に顔を向けて施策を行うのではなく、住民のための施策を行うべきです。